

## 大学生による部活動地域移行の促進と教員の負担軽減

### Involving university students to enhance junior high school club activities and reduce the burden on teachers.

中央大学経済学部和田ゼミナール(伊藤班)

伊藤初音<sup>1)</sup>, 王駿堯<sup>1)</sup>, 河村ひより<sup>1)</sup>, 南部颯太<sup>1)</sup>, 柳原一輝<sup>1)</sup>

指導教員 和田 光平<sup>1)</sup>

1) 中央大学 経済学部 和田光平ゼミナール

キーワード： 部活動地域移行, 教員の負担軽減, 地域創生, 大学生, 中学生

#### 1. 問題と目的

公立中学校教員の長時間労働は深刻な問題である。過労死や精神疾患による休職が増加しており、教員不足が悪化している。小学校では約3割、中学校では約6割の教員が過労死ラインを超えて働いている状況下で、教員の健康と労働環境の改善が急務である。そこで、部活動の指導における教員負担の大きさに注目した。

私たちの思索では、八王子市内の中学生がスポーツの機会を損なうことなく、教員の負担を軽減させるため、地域の大学生を外部指導員として活用する。また教員の負担を軽減に留まらず、地域の大学生の教職に対する興味と関心を喚起し、長期的には教員不足の緩和に寄与したいと考える。さらに、この取り組みによって八王子市内の中学生と大学生が結びつくことで市内の大学への進学を誘引させるなど、若い世代間での好循環を生み出すことを期待する。

#### 2. 事業概要

当事業は八王子市（以下「市」と称する）を主体に運営することを想定している。

Webサイトにて、運動部における技術的指導の外部委託を希望する中学校を受け付ける。外部指導員の必要人数や種目、生徒の基本情報、活動日数（基本は平日から4日、土日から1日）等を確認す

る。条件に合った八王子市内の大学に通う大学生を、市が外部指導員（以下、「大学生コーチ」と称する）として任用し、中学校に配置する。大学生は技術的指導を主とし、部活動顧問の補助を担う。

中学校の希望と、大学生本人の意志がある場合には、教育委員会が実施する研修を受講し、部活動指導員として、技術的指導に加え、練習試合への引率や部活動の運営管理、保護者への連絡等を担う。

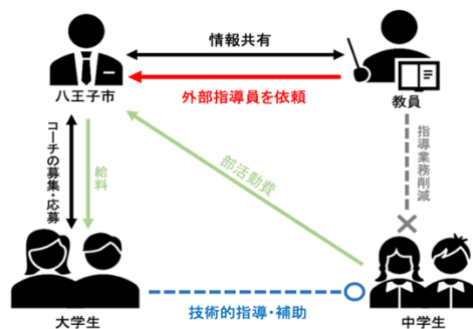


図1 事業概念図



図2 Webサイトイメージ

大学生の応募資格は以下のように設定することで、指導力の担保と中学生との信頼関係を築くことができるよう体制を整える。(1)現在運動部に在籍している。または中学校から高校までの間、継続的に同一種目の運動部に所属していた経験を有する。(2)1年以上の勤務が可能である。

1回の部活動を2時間とし、時給1,500円を大学生に対して支払う。受益者である中学生からは月額3,000円の部活動費用を徴収する。

大学生はコーチとして雇用された場合、教員や中学生とのコミュニケーションを通じた社会経験や強みを活かした人材育成・地域貢献の経験が得られる。

チームスポーツにおいて、部員数が足りない場合は近隣校との合同部活動とすることで、練習量や質を担保し、より多くの子供にスポーツの機会を提供する。また、定期的に公式ルールでの練習試合を実施することで、中学生のプロスポーツへの興味関心や普段の練習への熱意や協調性を高めることを目的とする。その際の中学生の交通費等は徴収する部活動費用に含まれるものとする。年間20回の合同練習を実施する。配置された大学生コーチは合同練習時にも顧問の補助をする。

### 3. 問題と対策

#### (1) 監督責任

大学生による指導中、中学生に怪我などのトラブルが発生した場合、速やかに担当顧問へ連絡し、対処する。さらに、それぞれの部活動専用のグループチャットを導入する。これにより、トラブル発生時にはより迅速に担当顧問に知らせることができる。

#### (2) ハラスメント行為について

大学生と中学生の間にセクシャルハラスメントやパワーハラスメントなどのハラスメント被害が懸念されるため以下の対策を行う。

- ① 月に一度中学生に対しアンケートを実施し、現状把握と予防に努める
- ② 男女別の部活動の場合はそれぞれに同性のコーチを配属する

#### (3) 大学生コーチの無断欠席について

大学生がやむを得ない理由で欠席をする場合、1週間前までに申請するものとし、早急に代行学生を探す。欠席時に代行学生が見つからない場合は、条件に合う大学生コーチの再配置も検討する。

欠席をする場合でも、生徒がその日の練習メニューを把握できるようにするため、1週間毎に要点を踏まえた練習メニューの提出を業務の一環とする。無断欠席を防止するため、配置前に対面で校長と担当顧問との面談を実施し、責任意識の向上を図る。また、無断で欠席した場合には解雇とする旨を周知させる。

### 4. テスト導入

大学生の活用について、その効果や課題を検証するため、2024年度以内に、中央大学の大学生を実際の指導に携わらせることを計画している。テスト導入では、市内の中学校1校の1部活に限定し、大学生はボランティアとして募集する。活動期間は1週間に限定し、事前と事後に校長と担当顧問との面談を実施することで、教員の満足度や意見を調査する。同様に、中学生に対するアンケートを実施する。

### 5. 運営資金

当事業の運営に関し、中学生の保護者から部活動費用として月額3,000円を徴収することを想定している。上記は、経済産業省「未来のブカツ」ビジョンにおける家庭向けアンケートによれば、部活動の地域移行後の妥当な家計負担額としての平均値は月額3,520円であったという調査に基づいて設定した。全校生徒のうち6割が運動部に所属していると想定すると、1ヶ月あたりの部活動費用としての収入は約1880万円である。対して1部活に対し1人の大学生コーチを配置し、平日8時間、休日4時間の活動を想定すると1ヶ月あたりの人件費は約2070万円である。大学生コーチを活用し人件費圧縮を行うことで、受益者負担や市による追加的予算を要することなく運営していくことが可能である。